

第7回
伊万里地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成28年11月1日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・・・・・ 1
資料 2	新高校の学科構成について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
資料 3	新高校の校地について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
資料 4	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
資料 5	伊万里地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
資料 6	伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

資料 1

新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第 1 次）

新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

回	地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
第 6 回	伊万里地区	平成 2 8 年 8 月 3 0 日（火）	学校関係委員 4 人
	・ 伊万里農林高校	1 0 時～1 1 時 4 5 分	地域関係委員 7 人
	・ 伊万里商業高校	伊万里商業高校 会議室	県教育委員会関係委員 8 人
第 7 回	鹿島地区	平成 2 8 年 7 月 2 6 日（火）	学校関係委員 4 人
	・ 鹿島高校	1 5 時～1 6 時 3 0 分	地域関係委員 1 0 人
	・ 鹿島実業高校	鹿島高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8 人
	杵島地区	平成 2 8 年 7 月 2 7 日（水）	学校関係委員 4 人
・ 白石高校	1 0 時～1 1 時 3 0 分	地域関係委員 1 1 人	
・ 杵島商業高校	白石高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8 人	
第 7 回	嬉野地区	平成 2 8 年 7 月 2 7 日（水）	学校関係委員 4 人
	・ 塩田工業高校	1 5 時～1 6 時 3 0 分	地域関係委員 1 0 人
	・ 嬉野高校	塩田工業高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8 人
第 7 回	唐津地区	平成 2 8 年 8 月 3 1 日（水）	学校関係委員 3 人
	・ 厳木高校	1 5 時～1 6 時 3 0 分	地域関係委員 5 人
		厳木高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 7 人
第 8 回	嬉野地区	平成 2 8 年 8 月 2 9 日（月）	学校関係委員 4 人
	・ 塩田工業高校	1 0 時～1 1 時	地域関係委員 1 0 人
	・ 嬉野高校	塩田工業高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8 人
第 8 回	杵島地区	平成 2 8 年 8 月 2 9 日（月）	学校関係委員 4 人
	・ 白石高校	1 4 時～1 5 時	地域関係委員 1 2 人
	・ 杵島商業高校	白石高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8 人
第 8 回	鹿島地区	平成 2 8 年 8 月 3 0 日（火）	学校関係委員 4 人
	・ 鹿島高校	1 6 時 1 0 分～1 7 時	地域関係委員 1 0 人
	・ 鹿島実業高校	鹿島高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8 人

2 主な意見等

回	地区	主な意見等
第 6 回	伊万里地区	<p>学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 次産業化対応の新学科というのは、農業、商業を前提としながら、農業県である佐賀県の今後を考えた場合に適当であり、設置した場合、県内でもかなり特徴的な学科になるだろう。 ・ 学科を減らせばその魅力が減るわけだが、案にある新学科は、学科が減っているという意味とは少し違う見方をすれば、この再編も、単なる再編ではなく、今後の専門高校の在り方として見ることができる。

回	地区	主な意見等
		<p>校地について</p> <ul style="list-style-type: none"> 校地選定の要件の一つとして、通学があるが、その安全性の確保というのは非常に貴重なものである。その点で、過去の地元からの提案書では伊万里商業高校の校地が適当となっている。 校舎制について、これをずっと続けていくのかというとそれは無いと思う。 今の時点では校舎制がベターという感じがしている。
第7回	鹿島地区	<p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の配置について、教科の教員数を削って養護教諭を賄わなければならない状況については、是非次回の委員会でその対応についての提案をお願いしたい。 <p>校時表について</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい校時は、いつから全校で導入するのか。 <p>部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動のチーム編成についてはどうなるのか。 <p>校名募集状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 校名検討委員会で校名候補の絞り込みをするという事だが、その結果は公表するのか。
第7回	杵島地区	<p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通科と商業科で卒業単位が異なるが問題ないのか。 職員配置については、管理職と養護教諭の各校舎への配置が不可欠であり、また、教育の充実のためには1人でも教諭が多い方が良い。 <p>移動手段について</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事における生徒の移動手段として、バスは準備してもらえるのか。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在想定している職員配置でカリキュラムが実施できるのか、部活動が維持できるのか等のシミュレーションが必要ではないか。
第7回	嬉野地区	<p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」を共通科目としたプログラムを考えても良いと思う。 職員配置について、特に養護教諭は是非両校舎に配置をしていただきたい。 <p>部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動での移動は、貸切バスや公共のバスを利用しなければなかなか難しいと思う。 中学生が高校を選ぶときに、部活動というのは非常に大きなウェイトを占めている。どこで活動をするかというのは、保護者の送迎にも影響してくる。 <p>その他</p>

回	地区	主な意見等
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新高校に関することについては、在校生にもしっかりと説明してほしい。 ・ 今までどおり塩田校舎は学年制、嬉野校舎は単位制で行うという理解でよいか、検討をしてもらいたい。
第7回	唐津地区	<p>校章・キャッチフレーズ・マスコットキャラクターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「わかすぎスクール」は、これから伸びていくというイメージが良い。 ・ 「プティ」は小粒なイメージがある。大きく育てるイメージでは「わかすぎくん」の方が良い。 <p>(校章は事務局提案のもの、キャッチフレーズは「『わかすぎ』スクール」、マスコットキャラクターは、名称が「わかすぎくん」、デザインは案1を基にして、アルファベットの頭文字を入れるという事で、委員了承)</p> <p>制服・体操服について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害のある生徒の中には、学ランだと詰め襟のホックが留めにくく、拒否感を持つ生徒が出てくる可能性がある。 <p>(案1 現行の制服を基に、ボタン数等の小変更 とすることで、委員了承)</p> <p>部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インドアスポーツ部は、同一の選手がバスケットとバレーの2重登録になってしまい、公式戦に出られないという問題が起こるのではないかな。 ・ 陸上部が無くなるのは寂しい。今後、種目によっては才能を持った生徒が入ってくる可能性もあるので、形だけでも残せないのか。 <p>(原案のとおり委員了承。ただし、インドアスポーツは今後さらに検討する)</p>
第8回	嬉野地区	<p>校舎制について(学校行事、部活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の活動を考えると、いつまでも校舎制という形でいいとは思わない。とにかく早い段階で1つになればと思う。 ・ Skype(スカイプ)など、テレビ会議ができる場所を両校舎に作れば連絡ができると思う。 ・ 生徒が行きたいと思えるような、もしくは保護者が子供を通わせたいと思えるような学校にならなければという中で、生徒に経済的にも精神的にもできるだけ負担がかからないような形にするために、移動手段の確保については、行政も含めてしっかりとした御支援をお願いしたい。 <p>職員配置について</p> <p>(あくまでも教職員数の確保のために、便宜上分校制を採るという事務局の提案の通り委員了承<なお塩田校舎を本校、嬉野校舎を分校とする>)</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新高校の検討状況については、今年度の中学生にも説明をしていただきたいと思う。それを知らなかったということが極力無いようにしてほしい。

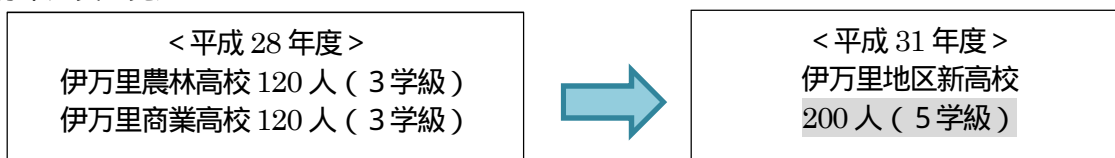
回	地区	主な意見等
第8回	杵島地区	<p>校舎制について</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎間を行き来する職員が出ると思うが、普通科生徒への就職指導等についてはどう考えているのか。 <p>職員配置について</p> <p>(あくまでも教職員数の確保のために、便宜上分校制を採るとする事務局の提案の通り委員了承)</p>
第8回	鹿島地区	<p>教職員配置について</p> <p>(あくまでも教職員数の確保のために、便宜上分校制を採るとする事務局の提案の通り委員了承)</p> <p>校章・校歌について</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和23年から30年まで、両校の校章や校歌が同じであった時期があるので、それを生かしたらどうかと思う。 それぞれの学校が独自に頑張っていた60年という別々の時代もある。全てを元に戻すという事ではなく、何か新たに作る部分、それから原点に戻る部分があっていいと思う。やはり、一つ一つ検討しながら進めた方がいいのではないか。

新高校の学科構成について

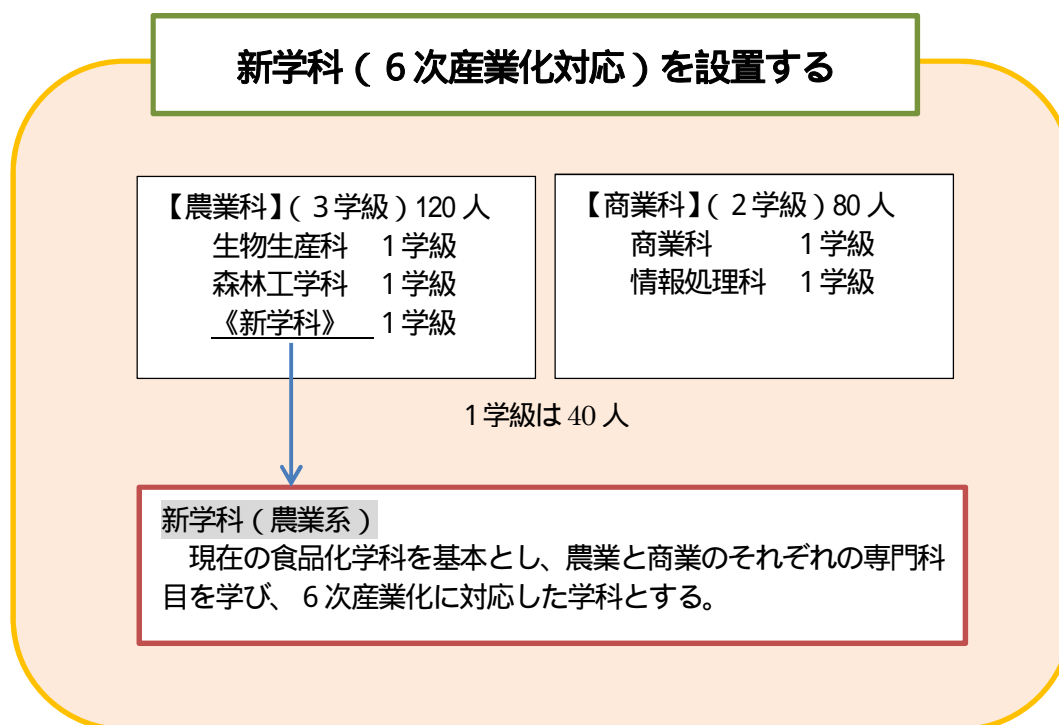
1 平成 28 年度現在の学科の状況

学校	大学科	小学科	募集定員 (人・学級)	備考
伊万里農林高校	農業科	生物生産科	40人・1学級	2年次より 「植物コース」「動物コース」
		食品化学科	40人・1学級	
		森林工学科	40人・1学級	2年次より 「土木コース」「林業コース」
伊万里商業高校	商業科	商業科	80人・2学級	
		情報処理科	40人・1学級	

2 募集定員の見込



3 新高校の学科構成 (事務局案)



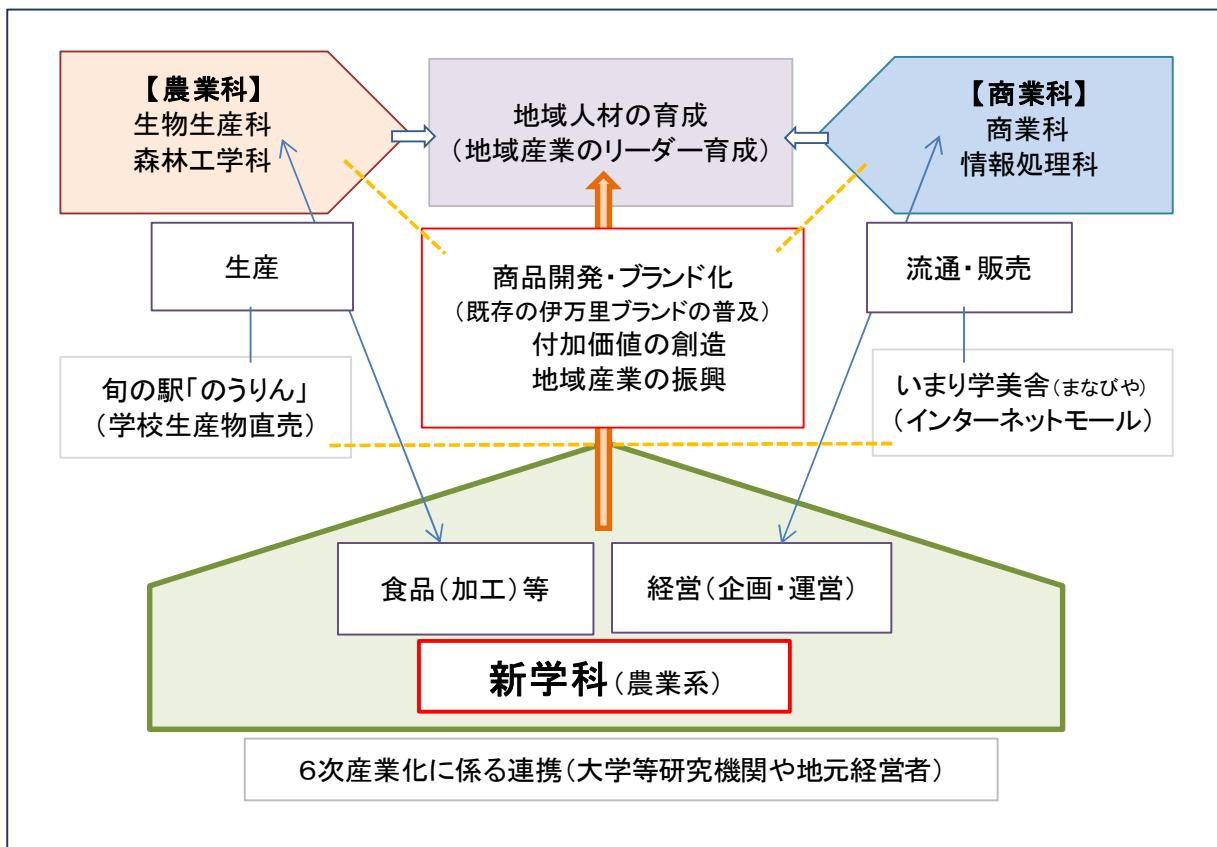
参考資料

1 新学科のイメージ

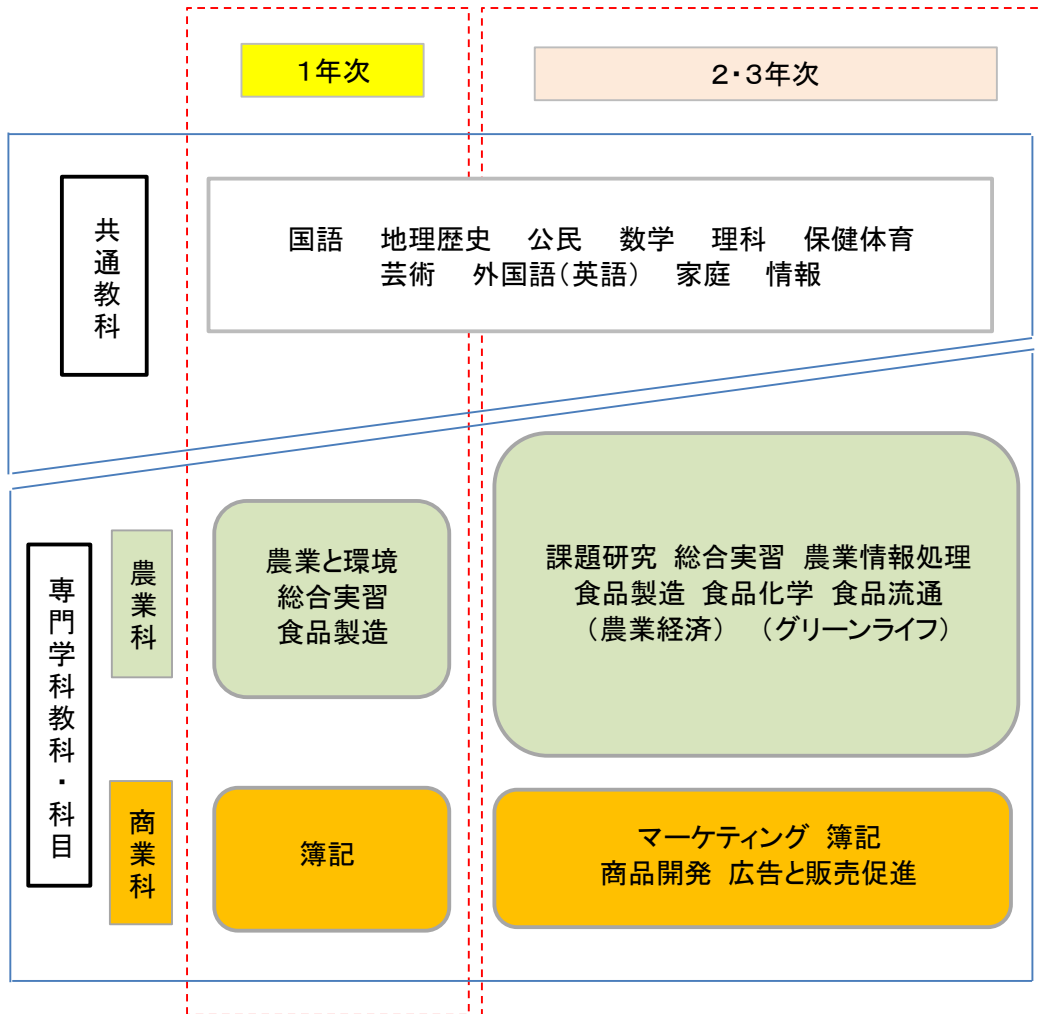
(1)新学科のコンセプト

時代の潮流である6次産業化に対応し、農産物の生産、加工、流通、販売を一貫してマネジメントするための基礎を学び、将来、伊万里市、佐賀県の産業界のリーダーとなるような人材を育成する学科。

新学科のイメージ図



(2)カリキュラム例のイメージ
 (現在の伊万里農林高校食品化学科をベースとした場合)



※情報は農業情報処理で代替
 ※農業科の科目は25単位以上が必要

2 他県の事例（徳島県学校視察報告）

徳島県立吉野川高等学校

（1）沿革

H24.4 阿波農業高校（農業科学科、園芸科学科）と鴨島商業高校（商業科、経営情報科）が統合。

（2）学科と募集定員

【計130人 5学級/学年】

大学科	小学科（数値はH28 募集定員（人））	
農業科	農業科学科 25	生物活用科 20
商業科	会計ビジネス科 25	情報ビジネス科 30 食ビジネス科 30

農業科...作物、野菜、果樹、草花

（3）校地の状況

どなり
【土成農場までの距離 約5.6km】

- ・本校地（旧鴨島商業高校）
- ・土成農場（旧阿波農業高校）



（4）学校の主な状況（H28.10.11に学校訪問）

学科併置（農業科、商業科）について

- ・ 農業科と商業科の連携で農業が苦手とする商品管理やマーケティング面を補うことができ、本校のオンリーワンブランドが開発できている。
- ・ 商業科の指導ではビジネスでの礼儀を重んじる面があるが、農業科でもそれを取り入れている。両科それぞれが大切にしているものをいかに融合していくかということである。

6次産業化への対応<食ビジネス科>について

- ・ 6次産業化への対応（食ビジネス科）は、統合するメリットを考えた結果である。
- ・ 食ビジネス科は実習棟を持っており、スクールカフェ吉野川とアグリ吉野川（農産物販売）を年間15回行っている。地域食材調達、調理、店舗経営を身に付けることを目的としている。
- ・ 進路について、就職では他の商業科の学科（会計、情報）と比較し、農業関連分野（食関係）が多く、進学では四年制大学で管理栄養士を目指す生徒もいる。

土成農場について

- ・ バス移動は約15分（約5.6km）、1日約2往復
- ・ 移動は1限目の前（朝HR後）2・3限目の間（休み時間20分）5限目の前（昼休み）
- ・ 教職員の土成農場本務者は5人で、朝礼は本校舎で行い、その後土成農場へ移動している。
- ・ 農場管理については人手が足りず、農場本務では担任ができない状況である。
- ・ 耐震工事が完了した実習関係の施設のみ利用（座学も行えるため、天候が悪い時もバス移動は行う）。それ以外（教室棟、グラウンド、体育館など）は使用できない。
- ・ 移動があるため、実習の時間が確保できていない。毎日が短縮授業と同じである。
- ・ 再編にあたり、農場に通うことになったので、動物の飼育や管理ができないため、畜産科は廃止した。

(1) 沿革

- M37(1904) 徳島県立農業学校として創立。
- S23(1948) 徳島県徳島農業高等学校となる。
- S24(1949) 徳島県城西高等学校となる。
- S31(1956) 徳島県立徳島農業高等学校と改称。
- H 9(1997) 徳島県立城西高等学校と改称(農業科、総合学科併置)。

(2) 学科と募集定員

【計 130 人 5 学級 / 学年】

大学科	小学科 (数値は H28 募集定員 (人))
農業科	生物技術科 25 植物活用科 25 食品科学科 25
総合学科	95 (人文社会系列 理数科学系列 生活福祉系列)

生物技術科...作物、野菜、果樹 植物活用科...草花

平成 29 年度から農業科にアグリビジネス科を新設。

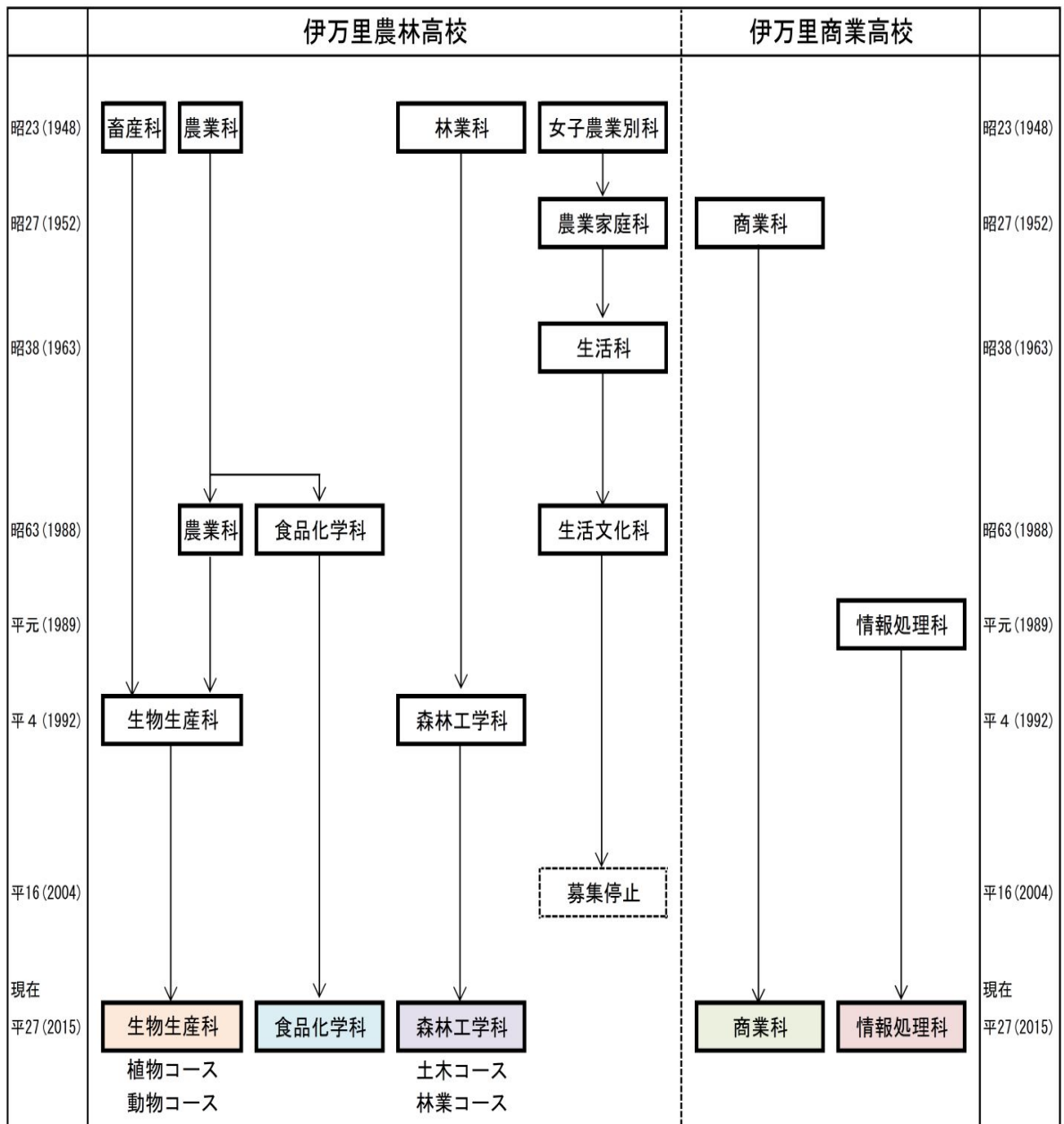
神山分校(生活科 10 人、造園土木科 20 人)あり。

(3) 学校の主な状況 (H28.10.12 に学校訪問)

アグリビジネス科(6次産業化対応)について

- ・ H20 年頃から 6 次産業化対応として阿波藍の商品開発を始めた。
- ・ アグリビジネス科では「もうかる仕組み」づくりを学ばせ、農業の他科は技術を学ばせる。他校のアグリビジネス科は「食品」がベースとなっている場合が多いが、本校では会社をイメージし、起業家精神を育てる。地域産業に農業的な視点(自然や文化を大切にしたい)を基盤とした経営手法を導入し、商品に付加価値をつけ、地域のリーダーとなれる人材を育てていきたい。
- ・ アグリビジネス科の実習棟を新設する。旧畜産科の実習棟を解体し、食品製造、販売、生徒ミーティングが行える施設にしている。H29 年度末に完成予定である。
- ・ 徳島大学に 6 次産業化対応の生物資源産業学科、農業大学校にアグリビジネスコースが新設され、それぞれとの連携を予定している。
- ・ 「6 次産業化プロデュース事業」として、城西高校(農業) 徳島商業(商業) 徳島科学技術高校(工業)での学校間連携を H27 から行っている。この事業では、学科を越えた取り組みの中での相乗効果が生まれている。この経験を生かしたい。

3 これまでの学科の変遷（学制改革以降）



4 伊万里農林高校と伊万里商業高校の現在（平成28年度）の教育課程表

伊万里農林高校（生物生産科）

全日制 生物生産科

佐賀県立伊万里農林高等学校

教科科目		入学年度		平成28年度入学（第1学年）						
		標準 単位数	学年 コース	1年	2年		3年		合計	
					植物コース	動物コース	植物コース	動物コース	植物コース	動物コース
国語	国語総合	4	4						4	
	国語表現	3					★(2)		0・2	
地理	現代文B	4		2			2		4	
	世界史A	2		2					2	
歴史	日本史A	2					②		0・2	
	地理A	2					②		0・2	
公民	現代社会	2	2						2	
	政治・経済	2					★[2]		0・2	
数学	数学I	3	3	2					5	
	数学A	2					2		2	
理科	科学と人間生活	2	2						2	
	生物基礎	2					2		2	
保健体育	体育	7~8	2	3			2		7	
	保健	2	1	1					2	
芸術	音楽I	2	②						0・2	
	美術I	2	②						0・2	
	書道I	2	②						0・2	
外国語	コミュニケーション英語I	3	3						3	
	コミュニケーション英語II	4		★(2)			★[3]		0・5	
家庭情報	英語会話	2		★(2)					0・2	
	家庭総合	4	2	2					4	
社会と情報		2							0	
各学科に共通する教科小計			21	14			17・15・10		52・50・45	
農業	農業と環境	2~6	4						4	
	課題研究	2~6					2		2	
	総合実習	2~12	3	3			1		7	
	農業情報処理	2~6	2	2					4	
	作物	2~8		2			☆[3]		2・5	
	野菜	2~8		2			[6]		2・8	
	果樹	2~8		2			[6]		2・8	
	草花	2~8		2			[6]		2・8	
	畜産	2~8			4			6	10	
	農業経営	2~6					2		2	
	農業機械	2~6					☆[2]		0・2	
	植物バイオテクノロジー	2~6		2			2	4	2	
	動物バイオテクノロジー	2~6						2	2	
グリーンライフ	2~6					☆(2)		0・2		
動物科学	2~10			4				4		
家庭	フードデザイン	2~6					[2]	0・2		
主として専門学科において開設される教科小計			9	15			13・15・20		37・39・44	
校外学習活動	就業体験 知識及び技能審査	1~20								
総合的な学習の時間				1					1	
履修単位の計(校外学習活動を除く)			30	30			30		90	
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1			1		3	
	生徒会活動									
	学校行事									
別途計画										

備考・○、()、[]、□は1科目選択。
 ・共通教科選択者は★を選択し、専門教科選択者は☆を選択する。ただし、3年次の「フードデザイン」については、共通教科選択者、専門教科選択者に関係なく選択することができる。
 ・総合実習は、1年次野菜、果樹、草花、畜産の4パート。2年次は植物コース（野菜・果樹・草花）、動物コース（畜産）の4パート。
 ・総合実習の各学年1単位は時間割外総合実習で長期休業中に実施する。内容は時間割内総合実習に準ずる。
 ・科目「社会と情報」2単位は1年次の「農業情報処理」2単位で代替する。
 ・「総合的な学習の時間」3単位のうち、2単位を「課題研究」で代替する。

伊万里農林高校（食品化学科）

全日制 食品化学科

佐賀県立伊万里農林高等学校

教科科目		標準 単位数	学年	平成 28 年度 入 学（第 1 学 年）			
				1 年	2 年	3 年	合 計
国 語	国 語 総 合	4	4				4
	国 語 表 現	3				★(2)	0・2
	現 代 文 B	4			2	2	4
地 理	世 界 史 A	2			2		2
	日 本 史 A	2				②	0・2
歴 史	地 理 A	2				②	0・2
	現 代 社 会	2	2				2
公 民	政 治 ・ 経 済	2				★②	0・2
	数 学 I	3	3		2		5
数 学	数 学 A	2				2	2
	科 学 と 人 間 生 活	2			2		2
理 科	化 学 基 礎	2	2				2
	生 物 基 礎	2				2	2
保 健 育	体 育	7～8	2		3	2	7
	保 健	2	1		1		2
芸 術	音 楽 I	2	②				0・2
	美 術 I	2	②				0・2
	書 道 I	2	②				0・2
外 国 語	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 類 I	3	3				3
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 類 II	4				★(2)	0・5
	英 語 会 話	2			☆(2)	★[3]	0・2
家 庭 情 報	家 庭 総 合	4	2		2		4
	社 会 と 情 報	2					0
各 学 科 に 共 通 す る 教 科 小 計			21	16		17・15・10	54・52・47
農 業	農 業 と 環 境	2～6	2				2
	課 題 研 究	2～6				2	2
	総 合 実 習	2～12	3	3	3	3	9
	農 業 情 報 処 理	2～6	2	2		☆(2)	4・6
	食 品 製 造	2～8	2	2	2	2	6
	食 品 化 学	2～8			2	3	5
	微 生 物 利 用	2～6			2	3	5
	食 品 流 通	2～6			2	☆②	2・4
家 庭	食 品 衛 生 学	2～6				★[3]	0・3
	フ ォ ー ド デ ザ イ ン	2～6				②	0・2
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 教 科 小 計			9	13		13・15・20	35・37・42
校 外 学 習 活 動	就 業 体 験	1～20					
	知 識 及 び 技 能 審 査						
総 合 的 な 学 習 の 時 間				1			1
履 修 単 位 の 計 (校 外 学 習 活 動 を 除 く)			30	30		30	90
特 別 活 動	ホ ー ム ル ー ム 活 動		1	1		1	3
	生 徒 会 活 動		別 途 計 画				
	学 校 行 事		別 途 計 画				

備考・○、()、[]、□は1科目選択。

- ・ 共通教科選択者は★を選択し、専門教科選択者は☆を選択する。ただし、3年次□の「フードデザイン」については、共通教科選択者、専門教科選択者に関係なく選択することができる。
- ・ 総合実習は、1年次は農産加工。2年次は農産加工、応用微生物、食品化学の3パート。3年次は農産加工、畜産加工、応用微生物、食品化学の4パート。
- ・ 総合実習の各学年1単位は時間割外総合実習で放課後や長期休業中に実施する。内容は時間割内総合実習に準ずる。
- ・ 科目「社会と情報」2単位は1年次の「農業情報処理」2単位で代替する。
- ・ 「総合的な学習の時間」3単位のうち、2単位を「課題研究」で代替する。

伊万里農林高校（森林工学科）

全日制 森林工学科

佐賀県立伊万里農林高等学校

教科科目		入学年度		平成 28 年度 入学（第 1 学年）						
		標準 単位数	学年 コース	1 年	2 年		3 年		合 計	
					土木コース	林業コース	土木コース	林業コース	土木コース	林業コース
国 語	国 語 総 合	4	4						4	
	国 語 表 現	3					★(2)		0・2	
	現 代 文 B	4			2		2		4	
地 理	世 界 史 A	2			2				2	
	日 本 史 A	2					②		0・2	
歴 史	地 理 A	2					②		0・2	
	現 代 社 会	2	2						2	
公 民	政 治 ・ 経 済	2					★2		0・2	
	数 学 I	3	3		2				5	
数 学	数 学 II	4					★[3]		0・3	
	数 学 A	2			★[2]		☆(2)		2	
理 科	科学と人間生活	2	2						2	
	生 物 基 礎	2					2		2	
保 健 育	体 育 7～8	2	2		3		2		7	
	保 健	2	1		1				2	
芸 術	音 楽 I	2	②						0・2	
	美 術 I	2	②						0・2	
	書 道 I	2	②						0・2	
外 国 語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3						3	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			★(2)		★(2)		0・4	
	英 語 会 話	2			☆(2)				0・2	
家 庭	家 庭 総 合	4	2		2				4	
情 報	社 会 と 情 報	2							0	
各学科に共通する教科小計			21	16・14		17・15・10			54・52・45	
農 業	農 業 と 環 境	2～6	2						2	
	課 題 研 究	2～6					2		2	
	総 合 実 習	2～12	3		5		1		9	
	農 業 情 報 処 理	2～6	2		☆[2]		☆[2]		2・4・6	
	森 林 科 学	2～8			2		5		7	
	森 林 経 営	2～8			2		2		4	
	林 産 物 利 用	2～8			2		3		5	
	農 業 土 木 設 計	2～8			2		5		7	
	農 業 土 木 施 工	2～6			2		3		5	
	造 園 技 術	2～8					☆(2)		0・2	
	測 量	2～8	2		2		☆[3]		4・7	
水 循 環	2～6			2		2		4		
家 庭	フードデザイン	2～6					2		0・2	
主として専門学科において開設される教科小計			9	13・15		13・15・20			35・37・44	
校 外 学 習 活 動	就 業 体 験	1～20								
	知 識 及 び 技 能 審 査									
総 合 的 な 学 習 の 時 間				1				1		
履 修 単 位 の 計 (校 外 学 習 活 動 を 除 く)			30	30		30		90		
特 別 活 動	ホー ム ルーム 活 動		1	1		1		3		
	生 徒 会 活 動		別途計画							
	学 校 行 事									

備考・○、()、[]、< >、□は1科目選択。

- ・ 共通教科選択者は★を選択し、専門教科選択者は☆を選択する。ただし、3年次□の「フードデザイン」については、共通教科選択者、専門教科選択者に関係なく選択することができる。
- ・ 総合実習は、1年次は土木・林業。2年次は土木コース（測量）、林業コース（造園技術・林産物利用）の2パート。
- ・ 総合実習の各学年1単位は時間割外総合実習で長期休業中に実施する。内容は時間割内総合実習に準ずる。
- ・ 科目「社会と情報」2単位は1年次の「農業情報処理」2単位で代替する。
- ・ 「総合的な学習の時間」3単位のうち、2単位を「課題研究」で代替する。

伊万里商業高校（商業科、情報処理科）

平成28年度実施教育課程表（平成28年度入学 第1学年）

佐賀県立伊万里商業高等学校（全日制）

教科・科目		学 科		商 業 科				情 報 処 理 科			
		標準単位		1年	2年	3年	履修単位の計	1年	2年	3年	履修単位の計
各学科に共通する各教科	国語	国語総合	4	4			4	4			4
		国語表現	3			□3	0,3			□3	0,3
		現代文B	4		3	2	5		3	2	5
	地理歴史	世界史A	2		2		2		2		2
		日本史A	2			△2	0,2			△2	0,2
		地理	2			△2	0,2			△2	0,2
	公民	現代社会	2	2			2	2			2
	数学	数学I	3	2	2		4	2	2		4
		数学A	2			2	2			2	2
		数学活用	2			□3	0,3			□3	0,3
	理科	科学と人間生活	2	2			2	2			2
		生物基礎	2		2		2		2		2
	保健体育	体育	7~8	2	2	3	7	2	2	3	7
		保健	2	1	1		2	1	1		2
	芸術	書道I	2	2			2	2			2
	外国語	コミュニケーション英語I	3	3			3	3			3
		コミュニケーション英語II	4		3	3	6		3	3	6
	家庭情報	家庭総合	4		2	2	4		2	2	4
	情報	社会と情報	2								
	共通教科小計				18	17	14,17	49,52	18	17	14,17
主として専門学科において開設される各教科	商業	ビジネス基礎	2~4	2			2	2			2
		課題研究	2~6			3	3			3	3
		総合実践	2~6			3	3				
		マーケティング	2~4		○3		0,3				
		ビジネス経済	2~4			3	3			□3	0,3
		経済活動と法	2~4				□3	0,3		□3	0,3
		簿記	2~5	6			6	3			3
		財務会計I	2~4		○4,●5		4,5		4		4
		原価計算	2~4		○3,●5		3,5			3	3
		情報処理	2~4	3	2		5	6			6
		ビジネス情報	2~4			3	3		3		3
		電子商取引	2~4				□3	0,3			2
プログラミング	2~4							5		5	
ビジネス情報管理	2~5								4	4	
専門教科小計				11	12	12,15	35,38	11	12	12,15	35,38
総合的な学習の時間											
履修単位の計				29	29	29	87	29	29	29	87
特別活動	ホームルーム活動(週あたりの時間数)			1	1	1	3	1	1	1	3
	生徒会活動			別途計画							
	学校行事										

△、□、は、それぞれ1つを選択

●、○ は、どちらかをまとめて選択

「総合的な学習の時間」は課題研究3単位で代替

情報の「社会と情報」は、1年次の情報処理で代替

伊万里地区新高校の校地（事務局案）

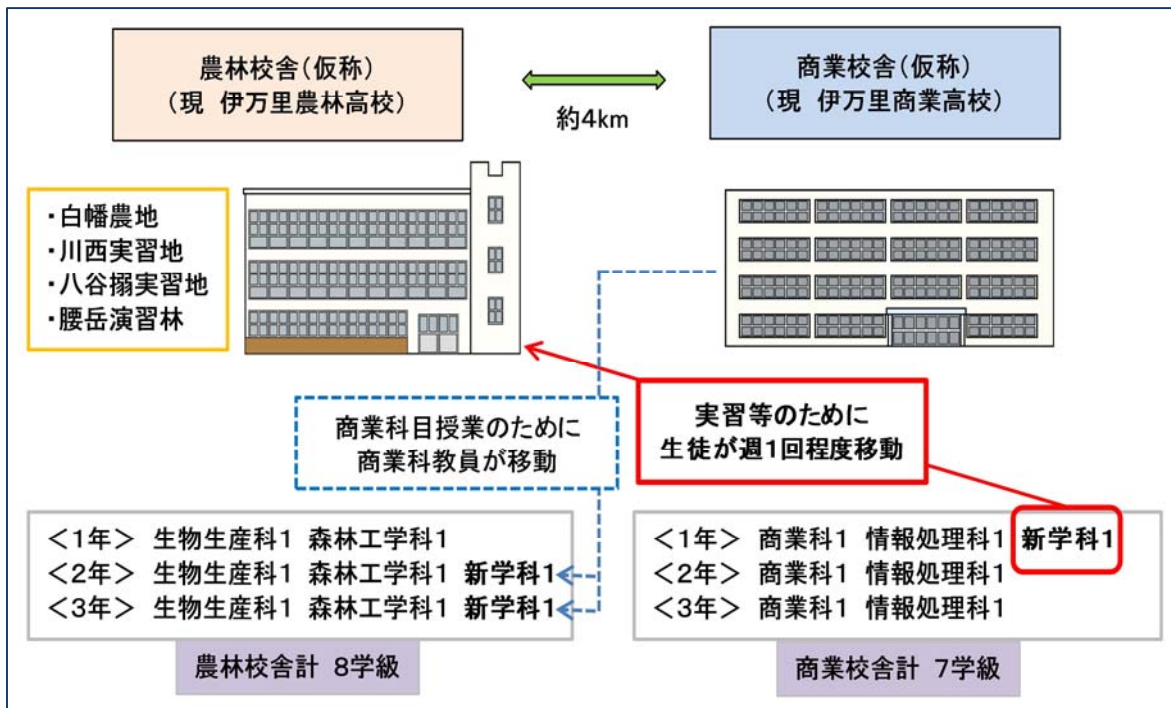
現在の伊万里農林高校の校地に農業科、伊万里商業高校の校地に商業科を配置する校舎制とし、それぞれを農林校舎（仮称）、商業校舎（仮称）とする。
 その際、新学科の生徒は1年次のみ商業校舎に配置する。

【理由】

農業科、商業科ともこれまでと同じ環境で専門性を維持した教育活動ができる。特に農業科では移動負担が生じず、農業実習での授業時間の確保ができる。

新学科（6次産業化対応）の教育効果をより高めるためには、新学科の生徒と商業科の生徒との交流や意見交換ができるような教育環境があることが望ましい。そのため、農業実習を伴う専門科目の単位数が少ない1年生を商業校舎に配置する。農林校舎での農業実習が週1回程度生じるが、生徒の移動負担を最小限にしなが、新学科としての教育の基礎を築くことができる。また、学校としての一体感の醸成も図ることができる。

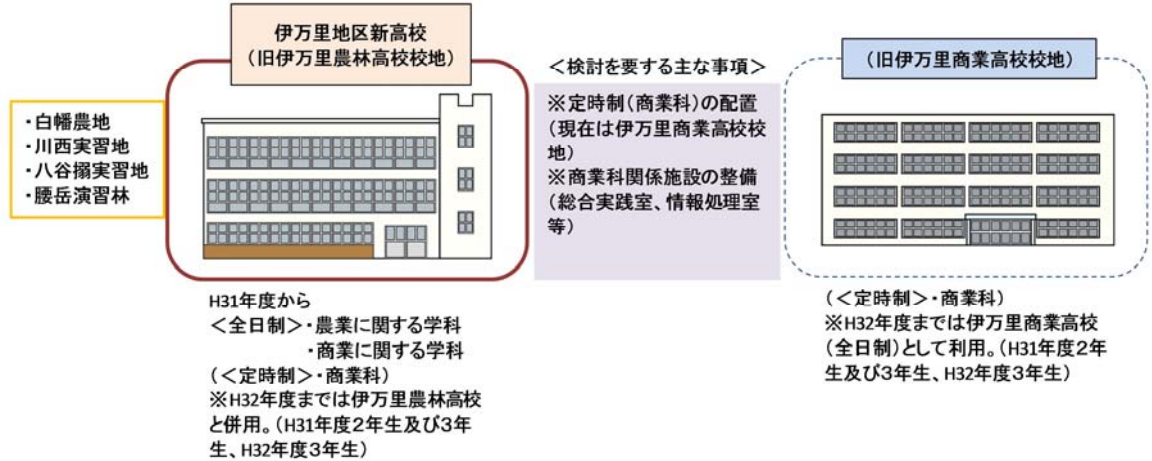
【イメージ図】



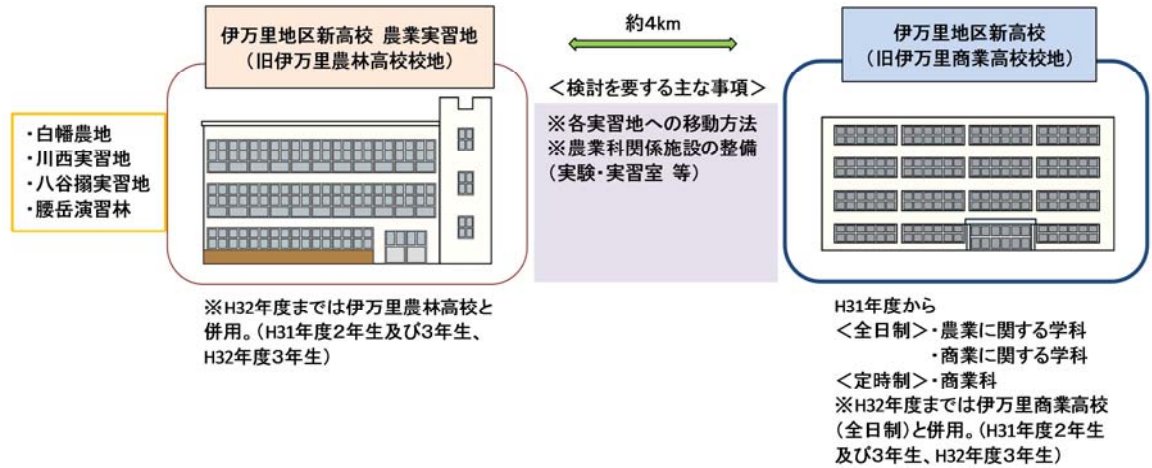
参考資料

1. 伊万里地区新高校の校地に係るパターンイメージ

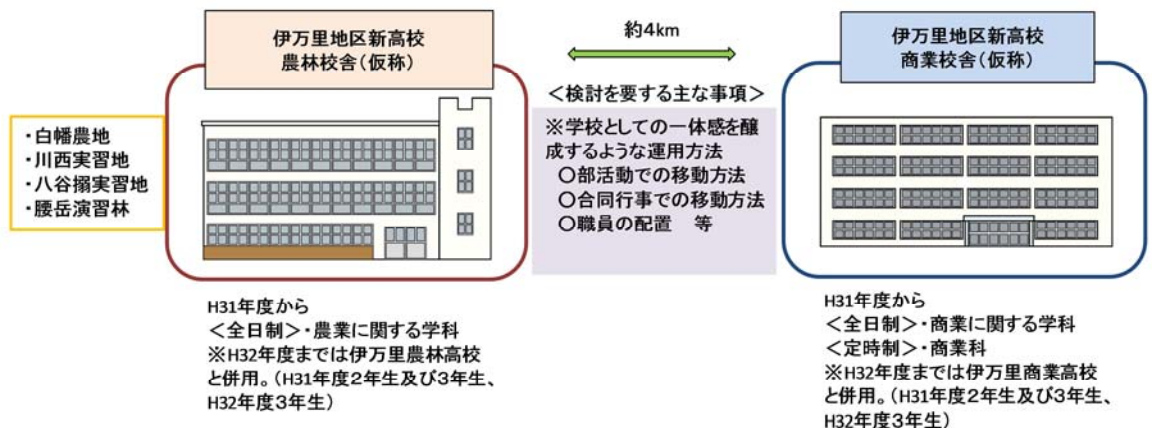
(1) 現在の伊万里農林高校を校地とした場合



(2) 現在の伊万里商業高校を校地とした場合



(3) 校舎制とした場合



2 他県事例（校舎制に係る視察校）

熊本県立阿蘇中央高等学校

（1）沿革

H22.4 阿蘇高等学校（普通科、商業科）と阿蘇清峰高等学校（生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科）が統合。

（2）学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】 校舎間の距離約 3.1 km

校舎	学科（数値は H28 募集定員（人））
阿蘇校舎（旧阿蘇高校）	普通科 120 総合ビジネス科 40
阿蘇清峰校舎（旧阿蘇清峰高校）	農業食品科 40 グリーン環境科 40 社会福祉科 40

農業食品科...野菜、草花、畜産

（3）校舎制の主な状況（H27.6.15 に学校訪問）

- ・ 生徒の移動を伴うのは、授業（総合選択制）合同行事、部活動等である。
- ・ 入学式、卒業式の際は、保護者用のバスも準備する。
- ・ 部活動のための移動は、生徒各自で行う。ほとんどの生徒が 30 分程度をかけて徒歩で移動している。移動ルートのほぼすべてに歩道が設置されている。特に交通指導等はしていない。
- ・ 合同で行っている行事は、各式典（入学式・卒業式・始業式・終業式・対面式）宿泊研修（1 年次）体育祭・文化祭、農業体験（田植え・稲刈り・収穫感謝祭）修学旅行、芸術鑑賞会、ロードレース大会、クラスマッチ（年 1 回）。
- ・ 式典関係はすべて阿蘇校舎で行う（阿蘇清峰校舎の生徒が移動）。

岡山県立真庭高等学校

（1）沿革

H23.4 落合高等学校（普通科、看護科、専攻科）と久世高等学校（生産生物科、食品科学科）が統合。

（2）学科と募集定員

【計 190 人 5 学級 / 学年】 校地間の距離約 6.4 km

校地（校舎）	学科（数値は H28 募集定員（人））
落合校地（旧落合高校）	普通科 80 看護科 40
久世校地（旧久世高校）	生物生産科 35 食品科学科 35

生物生産科...作物、野菜、草花、畜産

（3）校舎制の主な状況（H27.11.19 に学校訪問）

- ・ 合同の行事は、入学式（落合校地）卒業式（落合校地）芸術鑑賞会（3 年に 1 度）学年交流会（各学年で行う）。＜各行事とも大型バスで移動＞
- ・ 授業での生徒の移動はなし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、中型バス（スクールバス）で週に 2 日間（月金）のみ送迎。
- ・ 両校舎を兼務しているのは理科、芸術の教諭。

(1) 沿革

H27.4 北佐久農業高等学校（栽培システム科、生物サイエンス科、食品サービス科）、臼田高等学校（普通科、グリーンライフ科、デザイン科）、岩村田高等学校工業科（機械科、電子機械科、電気科）が統合。

(2) 学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】

キャンパス間の距離約 9.6 km

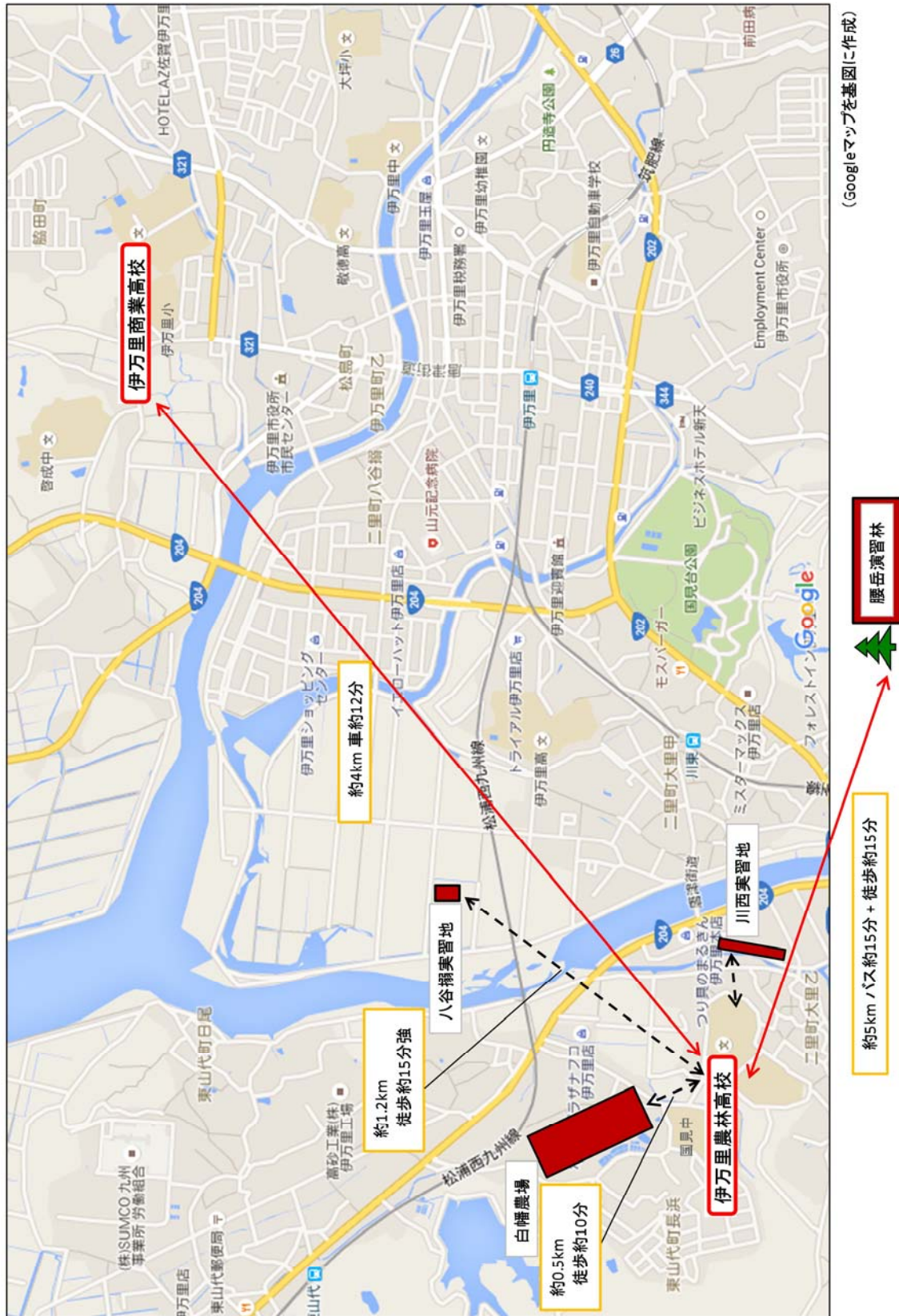
キャンパス（校舎）	学科		学級数	H28 募集定員（人）
浅間キャンパス（旧北佐久農業高校）	農業科	食品マネジメント科	3 学級	120 人 （くくり募集）
		生物サービス科		
		食農クリエイト科		
	工業科	機械システム科	1 学級	40 人
		電気情報科	1 学級	40 人
臼田キャンパス（旧臼田高校）	創造実践科（総合学科）		2 学級	80 人

農業科...作物、野菜、草花、畜産

(3) 校舎制の主な状況（H27.12.2 に学校訪問）

- ・ 一つの高校としての一体感を醸成していくことには配慮している。そのために、そのキャンパス、その学科でしかできないことと共同でできることの線引きをどこで行っていけばいいのかを現在模索中である。例えばキャンパス間ウォーク（両キャンパスを折り返して歩く）やクラスマッチ（各学年でどちらかのキャンパスに集まって行う）という行事は合同でやるが、文化祭はキャンパス別に行うということである。文化祭の別開催は「地域に開かれた学校」ということを考えた場合、1つのキャンパスのみの開催はできないだろうという発想である。
- ・ 1つのキャンパスで一斉に開催する行事については現地集合である。
- ・ 入学式、卒業式は浅間キャンパスで行っている（卒業式は予定）。
- ・ 生徒の授業でのキャンパス間移動はない。
- ・ 両キャンパスの兼務者は理科助手、音楽、美術、書道、農業の5人である。校務分掌がある方を本所属のキャンパスとしている。
- ・ 授業であれば産振用のマイクロバスを利用できる。通学用のバスはない。
- ・ 部活動について、巡回バス用の予算はない。平日は週2回（火、金）にPTAが持つマイクロバスを運行している。

3 現在の両高校の位置と伊万里農林高校の実習地



(Googleマップを基図に作成)

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
 - 二 新高校の施設・設備に関すること
 - 三 新高校への円滑な移行に関すること
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
 - 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

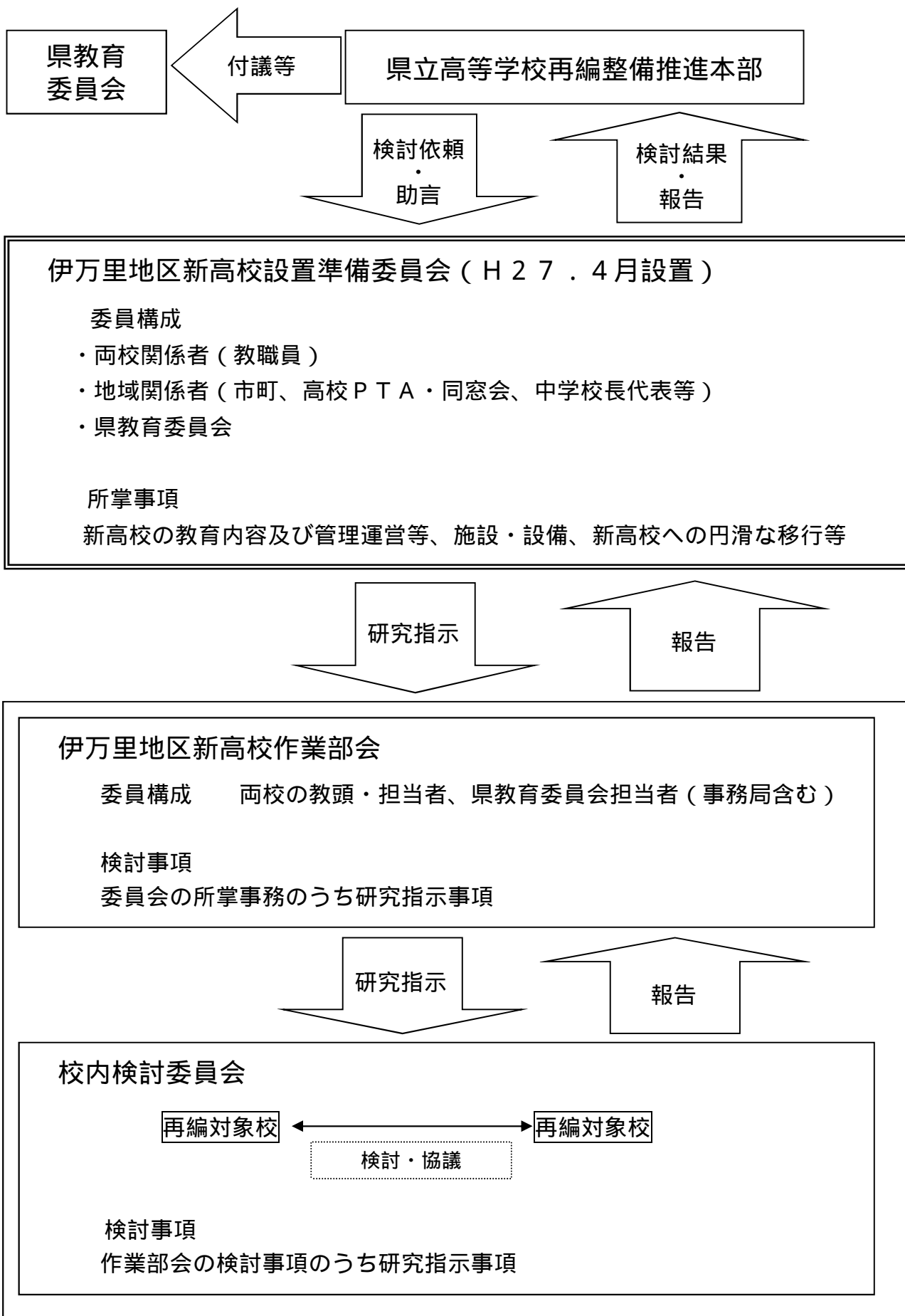
- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校



資料6 伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考
1	伊万里商業高等学校 校長	熊谷 正実	委員長・学校関係者
2	伊万里農林高等学校 校長	青木 久生	副委員長・学校関係者
3	伊万里商業高等学校 教頭	大川内弘紀	学校関係者
4	伊万里農林高等学校 教頭	松本 英裕	
5	伊万里市教育長	森 哲也	伊万里市関係者
6	伊万里市政策経営部長	佐藤 弘康	
7	伊万里商業高等学校 同窓会代表	森 日出生	地元関係者
8	伊万里農林高等学校 同窓会代表	岩永 康則	
9	伊万里商業高等学校 PTA代表	中尾 啓司	
10	伊万里農林高等学校 PTA代表	金子 直幸	
11	伊万里市立東陵中学校長	坂本 浩幸	中学校関係者
12	教育総務課長	熊崎 康春	県教委関係者
13	教育振興課長	五反田 進	
14	教職員課長	福地 昌平	
15	学校教育課長	松尾 敏実	
16	教育情報化支援室長	碓 浩一	
17	保健体育課長	吉松 幸宏	
18	県立高校再編整備推進室 室長	原 和弘	
19	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰	
事務局	伊万里商業高等学校教諭	坂口 哲也	
	伊万里農林高等学校教諭	木村 紀元	
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	山下 秀司	
	県立高校再編整備推進室 企画主査	杉本 耕一郎	